

第 7 期県民生活審議会 これまでの議論の整理（案）対照表

議論の内容（委員ご意見等）	備考（構成・今後の検討事項）
<p>・コミュニティの議論は定義からはじめるよりも、地域が抱えている課題など具体的テーマから入り、それを解決するコミュニティに必要なものは何かを議論し、そこからコミュニティのあるべき姿を議論した方がよい。（1全）</p> <p>・総合政策部会で基本的な考え方をまとめ、他の部会では各部会に関連の深い部分で地域コミュニティの再生について検討する。（1全）</p> <p>・生活創造活動支援については、県民交流広場のネットワーク化など新しいことだけ書かずに、生活科学センターでの消費者相談や嬉野台生涯教育センターでの文化伝承など、永年取り組んできたことを関連づけて書くべきである。（3総）</p>	<p>左記方針を踏まえ引き続き審議・答申を構成</p> <p>構成（案） 県民生活をめぐる課題と地域に求められる役割 地域社会の実情と潜在力 課題解決型地域コミュニティづくり（地域への提案） 地域コミュニティ支援のあり方（中間支援組織・市・県への提案）</p>
県民生活をめぐる課題と地域に求められる役割	
<p>・子どもの虐待を例にとってみても、いろいろなことが非常に複雑に絡み合っただけでは解決できないが、近所の人や近所の人の命をどうやって守るかということは非常に重要なテーマであり、本県で先鞭をつけて取り組む価値のある課題である。（1全）</p> <p>・個人・家庭の役割とコミュニティ（地域社会）との関係を検討していく必要がある（1全）</p> <p>・地域に参加しない自由についても考えなければならない（1全）</p> <p>・一部の役員がすべてを決め住民がそれを知らされるという形ではなく、幅広い住民が参画し、協議し、活動する協議会を小学校区等の単位に立ち上げ、地域の意見や提案を集約し、地域づくりを進めることが重要である。（1総）</p>	<p>県民生活をめぐる課題の多様性、複雑性を表現 課題は身近な単位で発見し、一次的に対応していくことが効果的であることを記述</p> <p>（例） 消費生活：高齢者や若者が悪質業者の被害に遭う例 部会議論を踏まえ重点的に記載 防犯・防災：子どもが通学途上で犠牲になる犯罪、災害時の助け合いが必要 子育て・青少年：子育て家庭の孤立／青少年育成環境 健康づくり：介護予防、生活環境改善・健康づくりの知識普及が必要 環境：ゴミ問題、緑の確保、地球環境に配慮した行動推進 高齢者福祉：高齢者を見守り支え合う地域社会づくり 情報：情報格差の解消、セキュリティ確保、情報発信まちづくり：景観、地域の将来像共有と実現 等</p> <p>個人・家庭・地域が企業や任意のグループ活動と異なる面があることを記載 （〔例〕地域への参画は、地域の一員としてのマナーであり個人の事情に合わせて可能な範囲で参画 等）</p> <p>課題解決型地域コミュニティづくりの重要性を提案</p>
地域社会の実情と潜在力	
<p>1 地域コミュニティへの住民意識・関心の低下 2 地域コミュニティを支える人材の不足 3 地域コミュニティに期待される活動領域の拡大 4 多様な主体の連携不足 5 地域の組織運営基盤の脆弱化</p> <p>広場事業点検や事例発表地域に概ね共通</p>	<p>（例） ・価値観多様性、参加意識醸成・合意形成の困難さ ・地域に埋もれた人材が十分発掘できていないこと ・地域・市町・県がそれぞれ担うべき役割明確化の必要性 ・地域団体、NPO、企業等の連携に伴う課題 ・場の機能、組織マネジメント能力強化の必要性 等</p>
<p>・地域コミュニティは多重化・重層化しており、必ずしも衰退しているとはいえない。大小・距離にかかわらず共感で結ばれるコミュニティもある。（1全ほか）</p> <p>・旧来の地域ネットワークにも地縁だけでなくオフィシャルでない自発的な横のつながり（結縁）があった。（1全）</p> <p>・日本の地域社会は明治、戦後と大きく変わってきたが、どの状態がよかったか、また新しい方向をめざすのか検討が必要。（1全）</p> <p>・第5期で議論した「再ネットワーキング」（一人ひとりがネットワークをつなぐ主体となり地域資源を活かす）の視点を持ちながら、背景（課題・地域に求められるもの）の変化と硬直化した地域の実情との関連性を分析・検討することも一つの方法である。（1全）</p> <p>・2007年から順次定年を迎える団塊世代のパワーや勤労経験を活かして、地域づくり活動に取り組める環境づくりが重要である。（参画協働推進部会 p4参照）</p>	<p>地域コミュニティは多重化、重層化しており、大小・距離にかかわらず、共感で結びついているコミュニティも活発化していることを記載 元々、日本的な地域ネットワークも共感でつながる関係があったことを記載</p> <p>地域の中に人材、資源は存在すること、これを掘り起こし、つないでいく視点が必要であることを記載</p> <p>団塊世代をシンボルとして、地域コミュニティ活動、参画と協働の担い手を広げる総合的な支援・誘導策に取り組むことを記載 （参画・協働部会での検討状況を踏まえ具体的に記述）</p>

課題解決型地域コミュニティづくり（地域への提案）	
<p>・人と人が結び合った中から必ず創造的なものが生まれてくる。県民交流広場事業を核に一緒に取り組む中から、協働できる関係を見つけていけばよい。（3総）</p> <p>・「地域への愛着と誇り」と「システム思考」が一緒になれば、強力なまちづくりになるのではないか。（1総）</p>	<p>地域課題を協働で解決していく「地域自治組織」づくりを提案（概ね校区コミュニティ毎）</p> <p>地域自治には「地域への愛着と誇り」と「システム思考」の両面が必要</p>
<p>・それぞれの事業を地域で活用するにあたっては、その地域で地域をどうつくるかという考え方をベースに置いておかないと事業に振り回されるだけで、地域力を発揮することができない。（3総）</p> <p>・若い層の参加を得る秘訣は、若者にどんどん責任と活躍の機会を与えることである。（1総）</p> <p>・学校や育友会を中心に若い父母や小学生の参加を得たり、生徒会を中心に中学生の参加を得て、子供たちの生の意見と生の実力を活かすこと、また大学と協働することも青少年育成という観点から効果的である。（1総）</p> <p>・旧来からの住民（特に高齢者）と新興住宅地の住民との意思疎通のため、高齢者と子どもの垂直のつながり、地域同士の水平のつながりを実現することが重要。（1総）</p>	<p>地域への愛着と誇りをから絆を紡ぎ出す</p> <p>課題を共有 - 地域の課題を提起し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や地域の悩み等について気軽に話し合い、問題意識を共有する <p>宝物を共有 - 地域資源を見つけ、教え合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材、団体、自然、歴史、祭り、食文化・特産物、施設・場所等教え合い、お互いに役立てていく <p>関係を共有 - タテ・ヨコの間関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者と子ども等異世代がふれあう機会づくり 青少年に責任と活躍の機会を与え成長につなぐ 様々なテーマを持ち活動するグループの参画推進 学校やPTAを通じ若い親や子どもの参加促進 <p>夢を共有 - 地域の将来像を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来どのような地域をつくりたいか、みんな話し合い、共感の輪を広げ、地域自身の考えに育てていく
<p>・「組織」としてのコミュニティから、「場」としてのコミュニティ（人と人がつながり、様々な取組が生まれていく場）に発展していくことが重要である。（2総）</p> <p>・県民交流広場事業等を使って、地域が段階的に発展していけばよい（3総）</p> <p>・情報は公正に公開し、できないこと、できることについてきちんと説明することが重要である。（1総）</p> <p>・まちの元気、まちづくりの重要性に気づくよう、課題を明確に発信する必要がある。（1総）</p> <p>・掲示板、広報紙、インターネット・ブログなど、多様な手段で情報発信する必要がある。（1総）</p>	<p>場と縁（拠点・情報・ネットワーク）を豊かにする</p> <p>拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の中の拠点の機能強化 地域内の交流 参画・共働のしくみづくり 地域自治を促進と展開する機能をもった場づくり <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明責任・双方向での情報共有 インターネット（SNS等）や情報紙ほか、多様な手段を活用し、地域の課題や取組を発信
<p>・団体がコミュニティの中で他と連携し、ともに地域課題に取り組む中で「してもらう団体」から自ら活動する団体が変わっていった実例もある。きずなを育て、地域のあり方や個人、家族との関係を考えていかなければならない。（1全）</p> <p>・団体から人材を派遣を受けることで、戦力となっている。（2総）</p> <p>・同種団体（小学校PTAと子供会、スポーツ21と体育協会）等を統合するか、密接な連携のもとに活動すればスムーズに活動できるのではないか。（1総）</p> <p>・行政のはたらきかけでできた様々な団体もその必要性や支援のあり方を見直すべき。（1全）</p>	<p>ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域団体の役割 構成団体相互の主体性を尊重しつつ、地域の行動力を強化、団体から人材を派遣し地域の戦力に
<p>・宝塚第一小学校区では大学にも地域の組織に加わってもらっている。また地域の中に建築等の専門家がいて活躍している。（1総）</p> <p>・コミュニティ施策を校区ごとに進めると必ず地域格差が発生する。NPO等が広域的に支援できるよう、広域的な活動への支援施策も重要である。（1総）</p> <p>・NPOと地域団体の協働は難しい面もあるが、女性を中心に、生活感に密着した取組から広げていけば実現していくのではないか。（1総）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 専門家、NPO等への期待 地域内外の専門家を見つけ活躍の場を提供、広域的に活動するNPO等との連携も効果的 地域と大学・学校との連携 インターンシップ等により学生の参画を推進、コミュニティをフィールドに協働研究・活動 地域と企業との連携 地域社会の一員としての企業の人的・物的資源を活かす
<p>・都市部と中山間地域では大きく事情が異なる。都市部では多様な活動がたくさんありすぎて統合するのが難しいため、まずはゆるやかなネットワークから取り組まれている。中山間部ではある活動を中心に据えてそれを組織として推進していくという方法が見られる。（3総）</p> <p>・どのタイプにどのモデルが有効かを調査し示すことが県の役割である。（3総）</p>	<p>地域自治のしくみづくり</p> <p>合意形成システム充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域特性に応じた合意形成のしくみづくり 各種団体を統合した組織や、連合組織、ゆるやかな連携による組織等多様、同種体の統合・再編も検討

<p>・西宮市東山台地区では、組織のスタッフは形式的に区域内の各自治会に割り当ててではなく、目的別グループ・団体などから集まった、まちづくりに志ある人たちを中核に据え、自ら考え行動する組織をつくるのが効果的である。一方で、自治会は、住民と最も包括的・網羅的につながっている組織として、地域合意を宣言し、各種団体の活動を内外に権威づける役割を担っている。(2総)</p> <p>・宝塚第一小学校区では、執行機関については、地域に関係する住民、関係者誰もが参加できる部会を作り、たくさんの人に参画してもらえる体制。議決機関については、団体代表という形のもと、学校、自治会、マンション管理組合を加えることで、8割の合意形成を実現している。(部会委員70名、活動員130名)また、同校区では、人数の多い評議委員会のもとに、適宜開催が可能な常任評議会を設置することにより迅速な意思決定が可能となった。(1総)</p> <p>・鮎原地区では、県民交流広場事業実施主体(みらいっくウメバチ)を頂点とするピラミッド組織になっていないが、各地区や団体から委ねられて事業に取り組んでいる。(1総)</p> <p>・考えが異なる団体であってもこれとこれは一緒にできるというものは結構ある。それを足して行けるシステムとして県民交流広場を使えばよい。(1総)</p> <p>・地域自治組織は団体自治の側面と住民自治の側面があるが、神戸市も朝来市もネットワーク的な組織のイメージである。ネットワークだけで足りるのかは疑問。(3総)</p> <p>・何をもちってネットワークというのか、また各構成団体とネットワークとの関係はどのようなものになるのか。これから議論していく際の課題である。(3総)</p> <p>・地域の力が自律的な地域運営が可能レベルに達した場合までもがゆるやかな連携が妥当かどうかは今後いろいろな事例を踏まえながら検討していく必要がある。(3総)</p> <p>・個別の活動を担う人も必要であるが、同時にコミュニティについて中長期的な視野で戦略的思考ができる人材を発掘し、一緒に活動する中で育成していく必要がある。(1総)</p> <p>・地域の担い手を発掘・育成する上で、代表者の任期の問題を十分考えておく必要がある。1年交代では仕事がわからないまま終わってしまい、信頼関係を構築することも難しい。一方、5年以上になると負担が大きすぎ、なり手がなくなる上、長すぎると地域の停滞につながる。(1総)</p> <p>・団体代表の任期が終わった後も、役員という形で引き続き経験を活かしていく方法もある。また、協議会組織の構成団体からは、代表でなく、実際に動く人を出してもらおうと戦力になる。(1総)</p> <p>・スタッフを公募制にしなければ、幅広い参加を得られないおそれがある。一方、地域が自立できるようになるまでは、公募でなく個別に依頼していくことが必要な場合もある。(3総)</p> <p>・地域組織はコミュニティビジネス等により、自主財源を確保することが必要。(1総)</p> <p>・宝塚第一小学校区では、組織の運営管理は無償であっても、他の活動については、小額の有償にしたり、現在行政が実施している事業を有償で地域が行う、コミュニティビジネスの展開を検討している。鮎原地区では、NPOを立ち上げ、その収益をみらいっくウメバチの活動資金に充てることを念頭に活動している。(1総)</p> <p>・行政の権限や地域交付金などの財源との関係に言及しなければ、地域自治についての十分な議論はできない。(3総)</p> <p>・活動する中で次の後継者を養成し任期を交替していけばよい。(1総)</p>	<p>・機能的な組織づくり</p> <p>・合意形成を行う審議機関と執行機関を分ける例も見られる/役員の任期、公募制についても検討する必要がある</p> <p>(合意形成を行う審議機関と事業として推進する執行機関を分ける西宮東山台等の事例を紹介、ネットワークを活かす手法や権限について引き続き分析・検討)</p> <p>(任期についても記述)</p> <p>(公募制についても記述)</p> <p>人材・資源充実</p> <p>- 地域の権限・財源についても検討</p> <p>・コミュニティビジネス、委託(施設の指定管理、事業の実施等)、寄附のしくみづくり</p> <p>- 人材養成のしくみづくり</p> <p>・地域の特質や生活課題に根ざした活動から展開/青少年に責任と活躍の機会を与えるなど、活動の中で次代の担い手養成</p>
<p>地域コミュニティ支援のあり方(中間支援組織・市・県への提案)</p>	
<p>・県や市の補助事業を地域が主体的に活用することが重要である。(2総)</p> <p>・スポーツクラブ21ひょうご事業について、あらためて、実績と反省をもとに次のステップにつなげていく必要がある。(1総)</p> <p>・一律に小学校区単位にコミュニティ施策を行うのは、行政からの押し付けと感ずる場合がある。(2総)</p> <p>・地域は状況が多様だけでなく、発展段階がいくつかある。(3総)</p> <p>・地域の格差を踏まえ、例えば初動期、成育期、自立期とに分け、初動期には、市民の一体感を醸成することに注力し具体例を挙げながら取り組みを進め、住民が知恵を出し、考えるよう支援、その後は、人材発掘等充実した地域づくりが進むよう助言等を行うなど段階的な支援が重要である。(3総)</p> <p>・地域の事情に通じ、人間関係や地域資源、協働の進め方について地域で調整できる人材を育てていくことが重要である。(3総)</p> <p>・他所の人材に頼るのではなく、県民局・文化会館、市町が一緒になって、地域のコーディネーターや「人間関係学芸調整員」といった人材を養成していったらどうか。(3総)</p>	<p>主体性、創造性が生きる支援 温情主義(パターナリズム)から、力をつけること(エンパワーメント)への支援へ</p> <p>県施策も転換・再構築することが必要(地域がそれぞれの実情に応じ、主体性を活かして、取捨選択し施策を活用していけるよう再編)</p> <p>1 持続的な地域自治組織づくりへの支援</p> <p><地域の創意工夫が生きる施策展開></p> <p>・地域が創意工夫のもと施策を組み合わせるよう、関連施策を見直し・再編し、わかりやすく情報提供(包括補助化も検討)</p> <p><コーディネート機能の強化></p> <p>・職員は地域の多様な主体とのネットワークを拡げる</p> <p>・各種行政機関との協働や支援施策の有効活用を推進する</p> <p>・地域に応じた協働のデザインを提案し、多様な主体をつなぐ</p>

<p>・地域に十分理念が普及することが重要である。そのためには、ワークショップ等の手法が効果的である。(3総)</p> <p>・県には専門化派遣等の役割を期待したい。(2総)</p> <p>・まず行政職員がワークショップ技術を身につけ、地域の人にそのノウハウを伝えていくシステムが必要である。(3総)</p> <p>・職員は家に帰れば1地域住民である。地域ごとに担当職員を選び、研修を行い、地域づくりを見守ることが考えられる。(2総)</p> <p>・県と市町が連携して、各種支援施策を効果的に使える方法を伝授しながら地域特性に合うように支援していくことが大事である。(2総)</p>	<p>2 人材発掘・養成の取組を展開する</p> <p><きっかけづくり・理念の普及></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセス重視、ワークショップ、フォーラム等展開 <p><地域をフィールドとした主体的な学びを支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家派遣制度(コミュニティ応援隊)等の一層の活用し主体的な学びを支援 ・大学・専門家との連携促進等 <p><行政職員のスキルアップ、地域担当制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークやコーディネートのスキル ・地域の現場との接点を持ち続ける、地域担当制も検討等
<p>(上記情報に関する議論のほか、県民交流広場事業検証等から)</p>	<p>3 工夫・ノウハウの提供</p> <p><各地で創意工夫されている事例や人材を紹介></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が創意工夫のもと施策を組み合わせるよう、関連施策を再編し、わかりやすく情報提供する(ガイドブック、活動相談など)等
<p>・住民にとっては、市町の地域づくり事業も県民交流広場事業もあわせて一体的に支援してもらい方がわかりやすく、使いやすい。(3総)</p> <p>・地域が既に進めている事業が順調に進んでいる場合には、県民交流広場事業は無用の長物といえる。既に進めている事業と足して一緒に進めて意味がある。(2総)</p> <p>・県民交流広場事業について、市町で県民交流広場事業の本来の目的は異なる使われ方をしていないかチェックし、県民交流広場事業の本来の目的が伝わっていくよう、十分留意することが必要である。(2総)</p> <p>・県としての方向性と市の方向性を討議する場が必要である。一致しなければ県は支援しなくてもよい。それが、市町が取り組んでいることに県民交流広場事業を溶け込ませるということである。事業の一本化、やり方の変更を含め、具体的な検討が必要である。(2総)</p> <p>・市町と県が話し合いの機会を設け、じっくり4つに組んで議論し、切磋琢磨していくことが重要である。(2総)</p> <p>・県民交流広場事業で県と市町の新しい関係をつくっていけばよい。(3総)</p> <p>・神戸市では、小学校区単位での合意形成機関としてふれあいのまちづくり協議会等があるが、県民交流広場事業はこれら地域の活動を活発・活性化する呼び水ととらえ、活用する。(3総)</p> <p>・朝来市では小学校区単位の地域自治協議会を立ち上げ、住民自治を徹底するための地域自治システムの仕組みづくりを進めている。県民交流広場はこの地域自治システムを立ち上げるために活用している。(3総)</p>	<p>4 地域内での情報メディアづくり支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種媒体を提供し情報収集発信支援、協働事業の企画実施等 <p>5 県と市町の新しい関係をつくっていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が選択し活用できる支援施策の重層的な充実を図りながら、県の事業と市の事業を一体的に展開(市町は、県施策を、各市町の地域づくり推進施策に組み込む) ・県と市町は施策形成段階から十分議論をする ・県は理念の形成・共有・普及に一層注力していく
<p>・コミュニティの再生とは、たくさんの人が関わり合い、どうやって自分 の街を創り、生活していくのかを考えることである。(1全)</p>	<p>(つながりながら一人ひとりが輝く社会のイメージを記載)</p>

参画・協働推進部会での議論

<p>[団塊の世代に関する考え方と対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職者の1番の願いは仕事であり、すぐに地域活動を希望している訳ではないという現状を押さえておく必要がある。 ・団塊世代の意識は多様であることを十分に認識しておく必要がある。 ・働くということと、地域で活動するということについての考え方、価値観がこれから変わっていくと考えられる。働くことは賃金を受け取るためだけでなく、社会参加の一環として考えている人も多い。 ・国民生活白書によると、60歳代の約65%が社会に貢献したいと考えているが、そのうち活動している人が25%程度であり、40%程度は活動していない。これらの層をターゲットにすればよい。 ・団塊の世代の特色をどうとらえるか議論があると思うが、現時点では、団塊の世代が行きたいときに行ける受け皿を用意しておけばよいのではないかと。 ・団塊世代を、第一線から退いた人と捉えるのではなく、社会を支える中心であると捉えれば、施策のあり方も変わってくる。 ・40年間働いた時間が約10万時間で、定年退職してから、平均寿命を80歳と考えると、20年間で10万時間である。つまり働いた時間と同じ時間をどう生きるかという面から考えることが大事である。 ・団塊世代のみならず前後を含めても5年程度である。しかし、人口減少社会になり、団塊世代を含めたシニアが地域の中でいきいきと活動できるようにしていくことが大事である。このため、10~20年の期間を想定して考える必要がある。 	<p><団塊世代等の意識></p> <p><政策の基本スタンス></p> <p>地域への提案、行政の提案に分けて整理(次回部会後))</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------

<ul style="list-style-type: none"> ・今まで肩書きと会社の組織だけで動いていた企業戦士を地域戦士にソフトランディングさせることが必要である。ソフトランディングは60歳前からやることが重要である。 ・企業人間と呼ばれる層は65歳まで働きその後退職する。この層にどう対応するかが最も大きな課題である。 ・団塊世代に対する誘導策だけでなく、受け皿となる地域社会やボランティアグループのあり方も検討が必要ではないか。 ・地域社会のあり方については、それぞれの歴史や伝統があるため、行政から要請することは難しい面がある。 ・団塊世代等の活動支援相談窓口は各市町に置いてよいのではないか。 ・窓口では、地域やコミュニティの特性に応じた地域づくりができるよう、支援策をある程度把握しておく必要がある。 <p>団塊世代等に対する活動支援は、行政以外のセクターではできないか。また市町と県の関係も整理しておく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> < 地域づくり活動へのソフトランディング > < 受け皿となる地域や組織 > < 相談機能のあり方 > <p>同上</p>
<p>〔「参画と協働」と「地域コミュニティ」〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「参画と協働」は着実に広がっている一方で、「地域コミュニティ」は衰退し、再生の必要が叫ばれるという関係を考える必要がある。 ・地域コミュニティというと、「地域」＝「場」と「コミュニティ」＝「組織」という異なる2つの考え方を合わせたものである。 ・コミュニティとは、「即地的な地域」にこだわらないものであり、多様な主体に十分能力を発揮してもらうためには、地域に関係しない形での活動も重視する必要がある。 ・地域には、多様な主体による様々な活動が必要である。そうした活動を自由にできる環境をつくり、それらの主体が連携していけるような取り組みが必要である。時間はかかるかもしれないが、互いに認め合い、助け合っていけるようになればよい。 ・「地域での3世代同居」という発想をとったら、コミュニティの再生の新しい取り組みが生まれてくるかもしれない。例えば、地域の中で多様な世代、例えば、シニアと若者をつないでいくことが必要である。 ・地域団体でもNPOでも、上手く「参画と協働」を活用しているところはますます展開している一方、本当にそれを必要としているところには、なかなか浸透していないという実態を変えていかなければいけない。 ・「協働」とは、本来、与えられたルールのもとではなく、取り組む人がルールを作り、イニシアティブを取ることである。 	<ul style="list-style-type: none"> < 地域の中での多様な主体のネットワーク > < 協働のルールづくり > <p>同上</p>

消費生活部会での議論

<p>〔消費者問題と地域コミュニティ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪質商法の被害にあうのは、契約などに関する基礎的な知識が足りない場合も多い。消費者トラブルを未然に防止するには啓発が重要だが、消費者と一口に言っても、子どもから高齢者までと幅が広い。広く周知させる方策を考えることが必要。 ・消費生活相談窓口があることを知らない人も多いため、消費者トラブルにあった場合には、市町や県に消費生活相談窓口があり、相談ができるということをしてできるだけ多くの人に周知徹底していくことが重要。 ・くらしのクリエイター（県の事業によるボランティア）や消費者団体は消費者被害を未然に防止するための啓発活動をしたり、地域での身近な相談相手になることが重要。 ・くらしのクリエイター制度を整備し、消費者トラブルを未然に防げるよう、研修に力を入れて取り組んで欲しい。 ・19年度からくらしのクリエイターには出前講座講師もしてもらうとのことだが、一方で、出前講座はできなくても消費者トラブルにあった人に「生活科学センターに相談に行きなさい」と言ってくれる人の存在も大事であり、そういう声かけをしてくれる「くらしのクリエイター協力員」も必要である。 ・県内の各地区で、くらしのクリエイターがどの人なのかかわからないと制度を作っても意味がない。広報が必要。 ・地域によっては、神社やお寺のネットワークを利用してコミュニティの再生に取り組もうとしているところが出てきている。お寺や神社にも悪質商法の被害を未然に防止するためのチラシ等を置いてもらえると効果があるのではないか。 ・県下の駐在所の数を調べてもらい、防犯組織の活用なども考えていったら良いのではないか。 ・「Aらいふ」は良い啓発資料だと思っている。高齢者は回覧板を丹念に読んでるので、各戸配布は無理にしても、自治会で回覧できるくらい「Aらいふ」を発行してはどうか。 ・地域コミュニティで核になるような団体やくらしのクリエイター活動の成功事例等をもとに、地域コミュニティを基盤にした消費者施策について考える。 	<p>総合政策部会の検討結果を踏まえつつ、地域コミュニティのあり方及び役割について整理</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------